

(別紙様式第5号)

6次産業化推進整備事業(農業主導タイプ)点検評価書(平成30年度分)

地方農政局等名
東北農政局

6次産業化法人の名称	設立年月日	代表者名	構成員数
(有)まごころ農場	平成8年1月12日	斎藤 靖彦	2人
主たる事務所の住所	青森県弘前市大字薬師堂字熊本16	TEL FAX	セキュリティに配慮し、 非公開とします。

1 事業の実施状況に対する所見

[取組状況について]

生果のミニトマトについて、今年は非常に日照が少なく補う方法として栄養分を葉面散布を積極的に行ったが効果は多少認められたものの平年の作柄とはならなかった。
加工原料について、近隣の稲作農家に水稻苗の育苗が終わった後のハウスに作付けしてもらい少しずつ増やしているところである。
加工品について、商品開発は順調に進んでおり、小売店と直接取引ができるように売り込みを強化している。

[経営状況、事業による変化等について]

経営状況について、ミニトマトの生果の売上が低迷し、加工品の売上が増えたものの減収となった。今後加工品を伸ばすにあたり原料の確保が問題となることが考えられるのでトマト以外の農産物の加工も伸ばして行く必要がある。

2 成果目標の達成状況に対する所見

項目	所見
(所得の向上に関する目標) 売上高の増加	生果のミニトマトについて、春作は、収量が増加した。秋作は高温により収量減となったものの高単価により平年に比べ売上が増加した。通期では春の収量減と低価格により前年対比では大幅な減収となった。 加工品について、1次加工のピューレの需要が伸び、その他の商品としては横ばいとなったものの増収となった。 全体としては加工品の売上は伸びたがミニトマトの生果の部分は大幅に減収となり目標を達成できなかった。ミニトマトは全国的に生産量が増え価格が安定したと見込めるので、さらに加工品の売上伸ばし目標達成につなげたい。
(雇用の創出に関する目標) 雇用者の増加	ミニトマトの収量が年間を通して少なかったことで作業員も少なくなり前年と比較して減少した。
(地域の活性化に関する目標) 〔耕作放棄地の活用〕	目標は達成している。

3 施設等の利用状況についての所見

[農畜産物加工施設の利用状況について]

施設の稼働日数は90%以上となったものの、単価あたりで軽い商品が多く、重量物である1次加工品の伸びが少ないため重量ベースの利用実績が計画に届かなかった。原料確保のために作付けを徐々に増やし達成できるようにしたい。

4 6次産業化法人と連携法人の取引状況についての所見

該当なし

5 改善措置等に対する所見及び指導内容

(1)成果目標について

売上高については、原料調達が予定量に満たないことが大きな要因になっているため、自社の簡易雨よけ栽培と近隣の農家からの調達を増やすことで目標達成することとしている。
また、雇用については、原料の確保を予定どおり進めることとしているが、仕事量の年間を通しての平準化と働きやすい環境を整えることで人手不足の社会環境を克服して、雇用の増加目標を達成することとしている。
これらの目標達成に向けた取組を行うことから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。

(2)施設等の利用状況について

原料の確保が足りなかったため施設利用率が目標を達成できなかった。原料の確保については簡易雨よけ栽培の面積を増やすことと原料仕入れを増やすことで目標達成を目指している。これらの目標達成に向けた取組を行うことから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。